

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランやコース制について満足していると答える生徒が85%以上である。	文理、コース、科目選択の説明会や定期的に行われる面談を通して、生徒・保護者へ説明し、本校の教育方針の理解を深める。	A 96%	B 89%	B	黒門キャリアプランやコース制について職員・生徒・保護者からある程度の評価を得ることができた。来年度の2年生からコース制がなくなり、文系・理系のクラスとなる。クラス編成を均等にすることで、学校全体として生徒がさらに主体的に頑張れる環境を作っていきたい。	・コース制がなくなることにより刺激が与えられ、向上心が生まれると思われる。 ・探究活動は大学入試等で必要になる場合があるだけでなく、進学先でも有効であり、今後推進する必要がある。 ・探究活動の成果の発表を楽しみにしている。生徒の関心も高く、内容に充実してきており、生徒主導で行われるような工夫が図られている。 ・富岡高校の「黒門キャリアプラン」や「探究」に言及する中学生が増加しており、特色ある教育が中学生にも着実に届いている。
		学習外の活動を主体的に行えたと答える生徒が85%以上である。	特別活動、部活動、ボランティア活動を生徒主体で活動できるように計画し、生徒の活躍の場を設ける。	A 100%	B 85%	B	SAH協力校に指定されたこともあり、総合的な探究の時間や学習外の活動（毎年開催となった文化祭）における「生徒の主体性」を重視する方針が定着しつつある。引き続き、総合的な探究の時間や文化祭の生徒主導（自走化）を一層推進し、生徒の非認知能力の向上とともに教員の働き方改革を図りたい。	
		総合的な探究の時間（課題解決型インターンシップやRQ型課題解決などの探究活動）に主体的に取り組んだと答える生徒が90%以上である。	探究のサイクルをくり返し実践する過程を通じて、段階的に課題解決力を育成する。特に課題発見力の育成を重視し、生徒が自らの課題を自らの力で設定できるように、生徒に寄り添う指導やその指導体制を充実させていく。	A 100%	A 93%	A	国立赤城青少年交流の家と連携した地域探究プログラム（ちいぶろ！）や代表者発表会と学校説明会のコラボ開催など、新しい取り組みも効果的に開催できた。引き続き現在の活動をベースに柔軟な活動にしていきたい。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	学習に主体的に取り組めっていると答える生徒が80%以上である。	シラバスを活用し、計画的に学習を進めると同時に、生徒の知的好奇心や探究心を喚ぶ授業、教科横断型の授業を目指す。	A 88%	B 80%	B	習熟度別授業を積極的に取り入れるなど、生徒の実態に応じた指導、支援が各授業で行われることで自身の理解や成長を感じられるようになってきている。更に各授業で工夫を施していく。	・習熟度別授業、適切なタイミングでの個別最適化しされた課題等価値ある実践である。 ・個別最適な学びの具現化がこれからの教育のトレンドであり、今後更にこの点の充実が期待される。 ・工夫した学習活動が行われていると感じている。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。	サクセスシステムの取組（模擬試験、平日・土曜・夏期休業中の課外補習、黒門道場等）を着実に行うとともに、スタディサブリの課題配信等を活用して個々の生徒に最適化された学習手段を提供し、生徒の進路実現を可能にする学力を身につけさせる。	B 80%	B 81%	B	今年度はスタディサブリの活用の仕方を工夫し、適切なタイミングで個別最適化された課題を与えることができた。また、生徒が主体的に自分のペースで学習しやすいよう、自主学習会の実施やスタディーホール等の環境整備を行った。 来年度も引き続き、生徒が自主的に取り組める教材と、学習効果が実感できるような課外補習のあり方について、実態に応じて検討する。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	生活指導係会議を毎週行い、全学年の生徒情報を共有し、組織的・継続的・先手を打つ生徒指導を目指す。	全職員で全生徒を見る、情報共有の徹底、先手を打つ生徒指導を合い言葉に所属学年、分掌を超えて全職員で生徒指導にあたる。	A		B	生活係会議、教育相談係会議、学年会議、企画会議、職員会議、いじめ防止対策委員会等を定期的に行うことで生徒情報を即座に共有でき、全職員で先手を打つ生徒指導ができていますので、平時より備えていく。	・教職員間でコミュニケーションが図られ、問題を共有した上で指導ができていると感じている。 ・積極的な生徒指導を意識し、自己肯定感を高め、自己実現に向けて主体的に活動に取り組む生徒の育成をさらに展開して欲しい。 ・非認知能力は今後の社会変化への対応力としても重要な観点（機能）である。 ・今年度は自転車通学者のヘルメット着用率が高いと実感しているが、100%を目指して今後も生徒主体の活動を続けて欲しい。 ・欠席率が低いのは、心身ともに健康ということであり、とても良いことだと思う。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	未然防止指導、再発防止指導として「いじめは、人の尊厳にかかわることで絶対に許されない」という強い認識のもと、法令に基づく組織的対応を行う。	A 100%	B 84%	B	法令に基づく組織的対応ができていますので、今後も生徒のみならず、保護者、教職員も「いじめは相手の人間性とその尊厳を踏みにじる『人権侵害行為』である(生徒指導提要P121)」ことを強く認識し、未然防止指導、早期発見、再発防止指導の徹底を継続する。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	自転車用ヘルメット着用モデル校として、命を守る必要不可欠な物として認識し、現在98.7%の着用率から100%の着用率を目指す。 欠席率が2%以下である。	毎朝行っている職員による登校指導のみならず、生徒主体の活動として風紀委員会、交通委員会の活動内容に朝の挨拶運動、ヘルメット着用啓発活動、交通安全運動を盛り込み実施する。 連続して欠席となった生徒については、生徒、保護者との連絡を密に行う。また、授業や部活動、委員会活動等を通して自己肯定感が高まる活動や声かけを行う。	A 98%	A 98%	B	交通事故は命に直結することへの理解を深めるため毎朝の登校指導のみならず、風紀委員会、交通委員会の活動内容に朝の挨拶運動、ヘルメット着用キャンペーンを盛り込み生徒主体で活動できた。交通安全教室(スクアードストレイト)で視覚的にも交通安全の必要性を訴えることができた。 欠席理由は様々であるが、生徒一人ひとりにとって安心安全な学校を目指し、多くの教育活動を通して、自己肯定感や自己有用感が高まるよう支援を継続する。2学期末時点欠席率1.73%	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	ドリームプランの進路指導企画が自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	進路選択に際し、生徒にドリームプランの企画（オープンキャンパスへの参加、大学模擬講義、進路講演会等）の意義を十分に理解させるとともに、生徒が自分の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持つような取組を随時展開する。	A 96%	A 89%	A	生徒が自身の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持てるよう、適切なタイミングで進路講演会、大学模擬授業、大学見学会や進路希望別の説明会を実施した。 生徒は黒門手帳を活用し、日々の生活を計画的に送れるよう工夫した。 また、担任をはじめとする教員による定期的な面談や助言も有効に機能している。考查範囲や長期休業の課題内容を時間的に余裕を持って発信し、自主的に学習できる時間を確保した。	・社会の変化が急速な中、主体的にキャリア形成していく力は更に重要度を増すため、高校時代に蓄えるべき思考力・判断力・表現力をしっかりと養うことが長期視点での進路選択決定力に繋がる。 ・高校で将来やりたいことを見つけるのは難しいことでもあるので、将来像を見つける指導の他に、興味のあるものなどバランス良く生徒を育成する指導をお願いしたい。 ・入試形態の多様化の中、個別指導をしっかりと行っている。 ・入試結果を更に広くPRしたい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて計画的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上である。	個々の生徒に関係する全教職員が、進路実現のための共通認識を持つとともに、面談等を通じて保護者とも情報を共有し、授業や課外補習、自主的な学習活動等に主体的・計画的に取り組めるよう目的意識を醸成する。	A 84%	B 76%	B	さらに、進路実現に向けての最終段階（受験期）では、面接練習や小論文・プレゼンテーション等の指導で、全教員が学年を超えて個別指導にあたった。生徒も期待にこたえて粘り強く取り組んだ。 しかしながら多様化する入試形態により、個別指導のための教員の負担がますます大きくなっている。いかに効果的かつ効率的に個別指導を実施できるかが来年度に向けての課題である。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	メール連絡網や『黒門通信』、ホームページなどで学校の様子や生徒の様子がよくわかると考える保護者が80%以上である。	メールの迅速さや黒門通信の詳しさ、ホームページの視覚的わかりやすさを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。	B 80%	A 81%	B	目標数値は上回ったが、『黒門通信』の発行・ホームページの更新とも、昨年度に比べタイムリーにできなかった。特にホームページは保護者や地域の方の目にするところなので、組織的に迅速にできるよう心がけていきたい。	・地域にとっても大切な情報源となるので、引き続き充実した内容を期待したい。 ・HPをたびたび見ている。もう少し更新されると学校の様子が分かって良い。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 1 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICT機器を学習に効果的に使用できている職員を80%以上にする。	校内研修で授業方法の共有を図る。グーグルドライブ内に共有フォルダを作成し、生徒・教員間のファイルのやり取りをスムーズにする。また、スタディサブリを活用した学習指導を取り入れる。	B 76%	A 95%	B	ICTを活用した授業実践について多くの生徒がクロームブック・プロジェクターを活用した授業を行っていると考えている。自己評価が低いのは実際に授業に活用できている教科・科目または担当者で活用頻度に差があると思われる。活用そのものが目的にならないように効果的な活用方法を継続して検討していきたい。 ICTを活用して業務改善についてはペーパーレス化が進み、会議資料の削減には成功している。またクラスルームの有効活用もみられる。	ICT機器活用力は定着していると思う。ネットリテラシーなどデジタル時代の倫理観の育成に更に努めてもらいたい。 ・各教員の授業改善の意識の差がどうしても活用の差となってしまう。 ・ICTの活用による業務改善に積極的に取り組んでいることは大いに評価できる。
	11 1 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	職員会議の資料の90%以上をペーパーレス化する。	グーグルドライブ内に共有フォルダを作成して、会議資料を閲覧できるようにする。	A 100%		A		
Ⅶ 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	1 2 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	教職員が、悩みを抱える生徒及び特別な支援を要する生徒及びその実態を90%以上把握している。また、把握した生徒については全てについて適切な対応に取り組んでいる。	前年度に引き続き生活アンケート（年3回実施）の内容や質問項目を、生徒が学校や教職員に悩み等を訴えやすいよう且つ学校や教職員が的確に生徒の悩みや状況を把握できるよう継続して見直す。また、SCや通級など外部機関との連携を通して、より適切な対応が取れるよう必要な場合には体制及び態勢の見直しに取り組んでいく。	A 92%	B 89%	B	実際に現場で支援対応にあたっている教職員及び支援対応を受けた生徒からの評価は、目標値に達することができたが、保護者の方からの評価が教職員及び生徒からの評価と比較すると高くなかった。保護者の方へ、本校の取組を紹介する機会・場面を増やしたり、その方法について工夫をしていくことを検討したい。	・POD、LD、LDHDはもとより、対人関係に悩みを持つ若い人が増加している点への配慮を更に重視し、充実して欲しい。 ・良く取り組みを進めていると思うので、この面でも保護者棟が正しく実情を把握できるよう情報発信をしたい。